

京都第一赤十字病院で慢性肝疾患で腹部エコー検査を受けられた方・ご家族の皆様へ

慢性肝疾患における肝血流と肝線維化、門脈圧亢進症についての検討

今回、京都第一赤十字病院では、肝硬変を含む慢性肝疾患の患者さんを対象に門脈圧亢進症に関する臨床研究を実施したいと考えています。

研究の目的

慢性肝疾患は、ときに肝硬変に至ります。肝硬変に至ると、肝機能低下とともに門脈の圧が上昇（門脈圧亢進症）により、腹水、食道胃静脈瘤、肝性脳症などさまざまな合併症が発症します。肝硬変、門脈圧亢進症の評価には、それぞれ肝生検、経静脈経由の肝静脈圧格差の測定が必要ですが、出血などの合併症を伴う侵襲的な検査です。肝硬変・肝硬度の測定には、血液生化学的検査や腹部超音波検査による肝硬度測定法が発展し、肝生検にかわる非侵襲的肝線維化診断法として実臨床上用いられてきましたが、門脈圧亢進症については新たな評価方法の検討は進んでいません。そこで本研究では、腹部超音波検査から得られた門脈、肝静脈の血流速度、血流量、肝硬度と血液検査から得られた各検査値をもとに、工学分野で用いられている流体力学的手法を用いて、門脈圧の推定を多施設で行います。本推定により、慢性肝疾患患者の皆さんの門脈圧の変化が観察可能となり、早期治療介入が可能となります。

研究の方法

・対象について

2021年承認日から、2026年3月31日まで京都第一赤十字病院で腹部エコー検査を受けられた方

・方法について

過去の診療録、あるいは実臨床の診療情報を取得します。また腹部エコー検査で肝弾性度（Shear Wave Elastography、Fibroscan）、門脈、肝静脈、脾静脈の血流速度、血管の断面積を測定します。これには通常診療の範囲内で特に経済的・身体的負担を伴いません。

・資料の管理について

情報はすべて匿名化され、個人が特定されることはありません。研究発表が公表される場合でも個人が特定されることはありません。

ご自分、あるいはご家族の情報を本研究に登録したくない場合は、下記連絡先までご連絡ください。

本研究は、京都第一赤十字病院倫理審査委員会において、適切な研究であると承認されています。この研究計画についてご質問がある場合は下記までご連絡ください。他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で、研究計画書及び研究の方法に関する資料を入手又は閲覧することができます。

連絡先

京都第一赤十字病院 消化器内科

氏名 藤井秀樹、西村健

電話：075-561-1121(代表)